



シンガポール日本語補習授業校
The Japanese Supplementary School, Singapore (JSS)

「学校だより」第09号 文責 加藤

令和8年(2026年) 7月25日

H P で公開中 www.jss.edu.sg

私が尊敬する人！

日本では、「猛暑・酷暑」についてのニュースが頻繁に流れています。ひょっとしたら常夏の国と言われるシンガポールの方が涼しいのかもしれませんが。この夏に日本からシンガポールに戻って来られた方の感想が気になります。

さて、「先行きの見えない混沌とした現代をたくましく生き抜いていくためには、誰の生き方を参考にすれば良いか」と誰かに尋ねられたら、私は真っ先にこの間読んだ本の主人公を挙げたいと思います。

その人の名前は「サー・アーネスト・ヘンリー・シャクルトン」。

シャクルトンは、二十世紀の初頭、スコットやアムンセンと南極大陸の極点到達争いを繰り広げていたイギリスの探検家です。当時の南極大陸への探検は、今とは違い正に命がけの旅でした。シャクルトンの船「エンデュアランス号」も南極大陸を目前に、氷塊に閉じ込められ、そして沈没してしまいました。

しかし、この絶体絶命の状況でも彼はそれまでの目標を「南極点経由の南極大陸横断」から「乗組員全員を無事に本国に生還させる」ことに切り替え、出航から二年後、極寒の南極から隊員二十七名全員を無事に本国に連れて帰りました。真に有言実行を成し遂げた偉人だと私は思っています。

このように奇跡の生還を成し遂げたシャクルトンですが、有名な探検家のスコットやアムンセンと比べると当時の世間の彼への評価は低かったようです。

ただ、現在は極限状態における彼のリーダーシップが再評価され、現在は経営学を学ぶ人々の教材にもなっていると聞きました。保護者の中にもこの名前を知っている方は多いのではないのでしょうか。

後にガラード（南極大陸をめざした別のチームの一員）は、「科学調査と地理調査を組織化するならスコット、冬の冒険ならウィルソン、極点に急いで行って来るだけならアムンセン、ただ、あなたがもし窮地から抜け出したいと思うなら断然シャクルトンを呼べ」と言っていたそうです。叶わない夢ですが、私もいつかこのように呼ばれてみたいものです。

最後にシャクルトンがこの探検の乗組員を募集した時の伝説の広告文を紹介いたします。「求む男子。至難の旅。僅かな報酬。極寒。暗黒の続く日々。絶えざる危険。生還の保証なし。ただし、成功の暁には名誉と称讃を得る。」

伝説の広告文と言われる所以は、新聞の片隅に小さく書かれたこの広告で約五千人がこの探検に応募をしてきたそうです。人はいつの時代も「危険を冒しても新しいことに挑戦したい」という気持ちに溢れているということではないでしょうか。

本校はこれからしばらくの間夏休みとなります。ネガティブに考えると本校の子ども達はしばらくの間、日本語に触れる機会が減ることになります。しかし、ポジティブに考えると「読書の時間が増える」ということになります。その昔、学校図書館司書の資格を取得するときに講師の方が言っていました。「良書よりも適書が子ども達には必要です。」

折角の機会です。子ども達には「良書よりも適書」の意味を踏まえ「自分の力で何かを切り開いていく勇氣(挑戦すること)」の大切さを知り、心を動かされるような「適書」にぜひ出会ってもらいたいと思っています。

校長単独の読み聞かせについて

本日(7/25)、AVルームで校長単独の読み聞かせを開催しました。読み聞かせの中ではメインのお話として、私が作成したオリジナルの紙芝居「大工の源さんは夜にやってくる!」を子ども達に披露しました。(お話の内容は前回の学校だよりNO8に掲載) 下校の時間の関係で、子ども達の感想を聞くことはできなかったのですが、時々笑い声が聞こえていたのできっと喜んでくれたのではないのでしょうか。私自身もたいへん楽しい時間を過ごさせていただきました。機会があれば第2弾も開催したいです。



読書推せん文コンクールへの応募

本校では毎年「全校児童生徒が一人一作品応募する」ことを目指し、「読書推せんコンクール」に応募しています。この取組に際して、すでに各担任より教室で書き方の指導を行い、専用の原稿用紙を配付しました。(※小学1年生は自由参加) ぜひ夏休み中のお子様の頑張りをご支援ください。



締切り日：8月29日(土) (期日厳守)

「3C」(楽しい、うれしい、素晴らしい)の紹介です。

※以前に掲載できなかった作文の紹介です。

この児童集会は3Cの中の「出会いは素晴らしい(C)」の活動でした。他の学年の人と出会えることができ、「わくわくして、うれしい気持ち」になったことが、しっかりと伝わってきました。



児童集会

小学部三年 〇〇〇〇

きのう、児童集会がありました。校長先生のお話とゲームが二つありました。校長先生のお話では、世の中には言葉を使ってしゃべれない人もいることを知りました。大へんだけど、やさしくしてあげたいと思いました。

ゲームでは、言葉を使わないでたん生日ごとに分かれました。ほかの学年の人たちと新しく知り合えて、わくわくして、うれしかったです。



母の日のカード

小学部三年 〇〇〇〇

先週の土曜日、じゅぎょうさんかんがありました。じゅぎょうさんかんの前には、母の日のカードをみんなで書く時間がありました。

わたしは、夜ごはんは何を食べたいかのしつ問と、「いつもありがとう。」とカードに書きました。わたしはどんなおへんじが来るかなと、とてもドキドキしました。

おへんじを読んでみたら、「じゅぎょうさんかんがんばったね。」とほめてくれてうれしかったです。

日本語を使ってお母さんとの手紙のやりとりです。これは3Cの中の「日本語を使えてうれしい(C)」の活動といえるのではないのでしょうか。「とてもドキドキした気持ち」「ほめてくれて、うれしかった気持ち」がしっかりと伝わってきます。そのやりとりの場面も頭の中でイメージできました。